



## 国際交流員ウィルペルトのコラム

ユーモアは私たちの襟が [怒りの勢いで]  
弾けるのを防いでくれるボタンです 中編  
フモア イスタ デア クノプフ デア フェアヒンデアテッ  
Humor ist der Knopf, der verhindert,  
das uns der Kragen platzt. Teil 2



ドイツのカーニバルが最高に盛り上がるのは、5つ目の季節の最後の1週間で、die tollen Tage (狂騒の日々)とも呼ばれます。

狂騒の日々は、Aschermittwoch (灰の水曜日)の前の週の木曜日、Weiberfastnacht (女性のカーニバル)に始まります。この日の伝統は、女性が男性のネクタイを切断することです。この伝統は、19世紀にまでさかのぼります。当時、カーニバルを楽しんだのは男性だけでした。1824年、女性たちはもううんざりして、衣装を身にまとい、ボン市の市役所に押しかけ、男性たちを追い出しました。ネクタイを切るのは、その出来事を記念する意味があります。

私の学生時代の校長先生も、よくその日にネクタイを切り取られていました。ですが、男性にとっては、プレゼントにもらった嫌なネクタイを処分するのに良い機会だと思います。



(c) Carol E. Davis CC BY 2.0

狂騒の日々は、Nelkensamstag (カーネーションの土曜日)、Tulpensonntag (チューリップの日曜日)、Rosenmontag (バラの月曜日)、そしてVeilchendienstag (スミレの火曜日)まで続きます。中でもハイライトとなるのは、カーニバルのパレードです。カーニバルの本拠地の都市(ケルンなど)では、パレードは月曜日に開催されるので、Rosenmontagsumzugとも呼ばれます。周りの市区町村では、月曜日以外の日(土曜日から火曜日までのどこか)にパレードが行われます。例えば、デュイスブルクのハンボルン地区では、Tulpensonntagに、ヨーロッパ最大の子どものパレードがあります。

パレードや他のカーニバルのイベントでは、都市や地方の特別な掛け声があり、日本のお祭りの「わっしょい」のように、大声で叫びます。ケルン地方だったらKölle Alaaf、マインツ地方やデュッセルドルフ地方だったらHelauです。



(c) Marco Verch CC BY 2.0

パレードは観客だけでなく、参加者にとっても大きな行事です。ケルン市では、コロナの前の最後のRosenmontagsumzugに、延べ1万2,000人の道化者たちが参加しました。その内訳は、歩いてパレードに加わった参加者が約3,200人、ダンスグループが約1,500人、楽隊が76団(約2,600人)、ボランティアが約4,000人でした。さらに、パロディフロート26台と馬車37台を含む、199台の山車が登場し、パレードの総距離は8.2kmにも及びました。

観客の特別なお楽しみは、Kamellenです。Kamellenとは、パレードの参加者が大量に配るお菓子のことです。お菓子だけではなく、チョコレートや花も配ります。花などは手から手に渡すこともありますが、ほとんどは宙にばらまきます。まるでおとぎ話のSchlaraffenland (美味な楽園=川には水の代わりに牛乳とハチミツが流れ、家はケーキでできていて、お菓子の雨が降ってくるという不思議な国)のように、カーニバルでは世界が逆さまになり、お菓子の雨が降ります。



(c) Marco Verch CC BY 2.0

沿道の観客を目がけてばらまかれるお菓子

沿道の観客、特に子どもたちは、袋を持って行き、お菓子をキャッチしたり、落ちていたのを拾ったりして、家に持ち帰ります。キャッチできるものはたくさんあります。例えば、ケルンのパレードでは、300トンものお菓子がばらまかれます。70万個の板チョコレートや22万個のチョコレートボックス、ソフトキャンディーなどのお菓子の他に、30万本のStrüßjer (バラやカーネーション)、数千個のぬいぐるみや小さなプレゼントもあります。ちなみに、これらの贈り物は、パレードの参加者たちが自分で用意して持って来ます。